

# 学力向上推進計画

糸満市立米須小学校

令和5年3月8日

## 1 目標

児童一人一人に学び・育ちを実感させ、確かな学力を育む

## 2 基本方針

- (1) 沖縄県学力向上推進5か年プラン・プロジェクトII から 学びの質を高める授業改善・学校改善に基づき本校の特色を生かした学力向上推進計画を立てる。
- (2) 学力向上推進の三つの視点から診断的評価の重点項目を児童と学校の両面で設定し、学校アセスメントとしての評価を行う。
- (3) 各種調査における県や国の平均値を指標としながら、糸満市や学校の状況を診断的に捉え、学校課題を明確にすることによって学校の主体的な組織マネジメントの機能を高める。
- (4) 米須小学校の強みや特色を生かしたカリキュラム・マネジメントの充実を図り、目指す子ども像の具現化や資質能力の育成に繋げる。
- (5) こ小中学校の連携や地域の特色を生かした授業改善に取り組む。

## 3 取り組み構想

総括目標： 児童の学力を県の水準を上回り、維持する。

推進期間： 令和4～6年度

成果指標： 全国学力・学習状況調査を指標とし検証する。

- 小学校全教科において全国平均正答率以上の維持
- 平均正答率30%未満の児童の割合および無回答率の減少
- 児童生徒質問紙における学習意欲等に関連する項目の数値の向上
- 学校質問紙の「授業における基本事項」等に関する事項の数値の向上

※ 県学力向上推進五か年プラン・プロジェクトII参考

### 推進目標

- ① R5年度 全国学力・学習状況調査において 県を上回る（6年）
- ② R5年度 県学力到達度調査において国語・算数共に県水準を上回る（5，6年）
- ③ 学びのたしかめにおいて、県の上位水準（4，5年）
- ④ 諸調査において、無回答率を減少させる
- ⑤ 中間層と30%未満の児童の引き上げ

評価（達成状況 90%以上⇒A 70%以上～90%未満 B 70%未満⇒C）	評価
① R5年度 全国学力・学習状況調査において 県の水準を上回る（6年）	
② R5年度 県学力到達度調査において国語・算数共に県の水準を上回る（5，6年）	
③ 学びのたしかめにおいて、県の水準を上回る（4，5年）	
④ 諸調査において、無回答率を減少させる	
⑤ 中間層と30%未満の児童の引き上げ	

## 4 取組の基本方針

学力向上推進の「3つの視点」		
<p>視点1 自己肯定感の高まり</p> <p><b>ねらい</b> 児童が、自分のよさや可能性を認識すること</p>  <p><b>【取組】</b>            児童生徒の良い点や可能性、進歩の状況などを適切に把握してフィードバックする。            児童生徒が自分の特徴に気づき、よい所を伸ばし、自己肯定感を高めながら、日々の学校生活を送ることができるようにする。</p>	<p>視点2 学び・育ちの実感</p> <p><b>ねらい</b> 児童が、学ぶことの意義や価値を実感し、資質・能力を伸ばすことが、自己肯定感の高まりに影響する。</p>  <p><b>【取組】</b>            教師が教材研究と児童生徒理解を深め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に取り組む。            一人一人の学習状況を丁寧に見取りながら指導に生かす評価を行い、児童生徒に自らの学びや変容を自覚させる。</p>	<p>視点3 組織的な関わり</p> <p><b>ねらい</b> 教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図っていくこと</p>  <p><b>【取組】</b>            児童生徒が自らの学び・育ちを実感し、自己肯定感を高めていくためには、学校全体で組織的かつ計画的に関わること。            校内研究や教科会等において、何を見取り、どのように評価するか、その結果を児童生徒への支援にどうつなげていくのかを職員間で深め、共有すること。</p>

学びの質を高める 「5つの方策」
<p>方策1 日常化する (質的授業改善)</p> <p><input type="checkbox"/> 児童生徒が学んだことの意義や価値を実感し、自己肯定感を高める個人内評価等の取組を日常化する</p> <p><input type="checkbox"/> 生徒指導の4つのポイントを生かした授業を日常化する</p> <p>「規範意識を醸成する」「自己存在感を与える」「共感的な人間関係の育成」「自己決定の場を与える」</p> <p><input type="checkbox"/> 資質・能力を育むために、単元を見通した授業改善を日常化する</p>
<p>方策2 そろえる (組織的共通実践)</p> <p><input type="checkbox"/> 見取る視点・観点を共有し共通実践する</p> <p><input type="checkbox"/> 「学習の基盤となる資質・能力」の育成</p>
<p>方策3 支える (発達の支援)</p> <p><input type="checkbox"/> 確かな児童生徒理解</p> <p><input type="checkbox"/> 支持的な風土をつくる学校・学級経営の充実 (ガイダンスとカウンセリング)</p> <p><input type="checkbox"/> 学びに向かう集団づくり</p>
<p>方策4 見通す (学校組織マネジメント)</p> <p><input type="checkbox"/> 学校課題解決に向けた組織マネジメントの機能を高める。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校評価と関連付けたカリキュラム・マネジメント及び年間サイクルの確立</p> <p><input type="checkbox"/> 授業改善・学校改善に向けた校内研究 体制の充実</p>
<p>方策5 つなぐ (学校連携・地域連携)</p> <p><input type="checkbox"/> 市町村の特色を生かした施策推進による学校づくり</p> <p><input type="checkbox"/> キャリア教育の視点を踏まえた校種間の連携強化</p> <p><input type="checkbox"/> 学校・地域・家庭の互惠的関係の構築</p>

## 5 具体的な取組

### 方策1 日常化する (質的授業改善)

- 児童生徒が学んだことの意義や価値を実感し、自己肯定感を高める個人内評価等の取組を日常化する
  - ・ふり返りを確実に実施して、自己の成長や達成感や学びのよさを実感させる
  - ・一人一人のよい点や成長した点について積極的にフィードバックを行う
  - ・これまでの学びとこれからの学習活動を結び付けながら児童生徒の主体的な学習活動を引き出すような指導を図る。
- 生徒指導の4つのポイントを生かした授業を日常化する
  - 「規範意識を醸成する」
    - ・児童が、互いの意見を尊重し合い、安心して学べるような授業の展開⇒「聞き方123」など
  - 「自己存在感を与える」
    - ・児童が、自分のよさを生かし、興味関心を高めるような発言や作品、ふり返りを生かした授業を展開。
  - 「共感的な人間関係の育成」
    - ・グループ活動を通して児童が、違いやよさを交流し、違いやよさを学び合えるような授業を展開
  - 「自己決定の場を与える」
    - ・児童が主体的に学ぶことができるよう課題の設定や学び方について、個別に選択できるような授業を展開
- 資質・能力を育むために、単元を見通した授業改善を日常化する
  - ・単元や題材など内容や時間のまとまりをどのように構成するかという単元を見通した単元(授業)デザインの工夫・改善を通して、3つの資質・能力をバランスよく育成できるよう学習活動の充実を図る
    - 単元計画を立て、単元計画や評価計画を児童と共有して見通しをもつ。
    - 単元のまとまりの中で、児童が学び方を選択して学び進める場面の設定
    - 主体的・対話的で深い学びを軸とした授業デザインの実践を図る
      - ・児童自ら問いを見いだす場面の設定  
(既知とのズレ、知的好奇心をくすぶる課題、目的意識や必要性のある課題の設定)
      - ・協働して学ぶ場面の設定  
(他者の意見や立場の違いで考えを広げたり、多様な考えを組み立てて考えたりして、協働して学ぶ価値を実感する場面を意図的に設定)
      - ・学びを深める場面の設定  
(教科の特質に応じた「見方・考え方」に迫る発問や教材、教具、資料、思考ツール等を用いて、学びの深まりを意図的に創り出す)
  - 授業後のふり返りの実施
    - ・ふり返りの視点として、①分かったこと②学びのプロセス③新たな疑問を見いだすこと

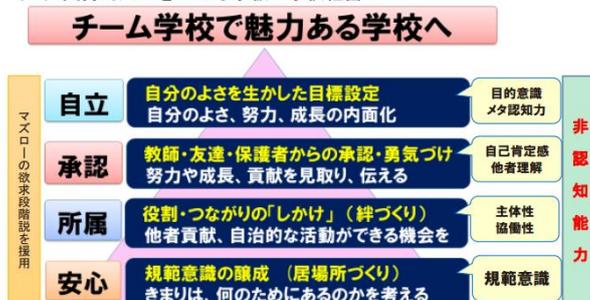
### 方策2 そろえる (組織的共通実践)

- 見取る視点・観点を共有し共通実践する
  - ・「ガイダンス」：学びに向かう集団づくりとして必要な指導や援助を行う⇒全体指導
  - ・「カウンセリング」：個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導「ガイダンス」と「カウンセリング」をバランス良く実践すること
  - 学習規律の定着を図る際にも、児童生徒の一人一人のよさや可能性を認めつつ、児童自らがその目的や意義を受け止め、自己肯定感の高まりや学び・育ちの実感が伴うよう、見取る視点・観点を共有して実践
  - インクルーシブ教育の視点を踏まえて、個別のニーズに合わせて環境的・人的・物的な配慮に柔軟に対応できるように努めること
- 「学習の基盤となる資質・能力」の育成
  - ・日々の学習や生涯にわたる学びの基盤となる「言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等」資質・能力の育成について体系的・継続的に取り組むことが重要
  - 話の聞き方  
(学年や発達段階に合わせた、聞き方を指導を行う)
  - 情報活用能力  
(タブレットを使って文字入力や情報検索、文章作成ソフト、表計算ソフト、スライド資料ソフトの継続的・体系的に活用していく)  
(情報モラル教育の年間通じた実施)※専門的な外部機関と連携した授業の実施
  - 朝の学習の時間  
(朝の時間 月曜日：読書 火曜日：読み聞かせ 水曜日：算数 木曜日：朝会 金曜日：算数)
  - 読書用の本は、いつでも読めるように計画的に図書室を利用すること

方策3 支える (発達への支援)

- 確かな児童生徒理解
  - ・児童を多面的・総合的に理解するために、学級担任による観察や面接に加えて、管理職、専科、養護教諭、部活動顧問、スクールカウンセラー等による広い視野から児童生徒理解を行う
    - スクールカウンセラー：火曜日 ○教育相談員：金曜日
  - ・全職員で児童の状況の評価・分析する場を設定し、諸活動のマネジメントサイクルに生かす
    - いじめ防止・支援委員会で情報の共有と今後の対応検討
    - 管理職への報告と迅速な対応
    - 問題に対しては組織として対応する
- 支持的な風土をつくる学校・学級経営の充実 (ガイダンスとカウンセリング)
  - ・「安心 (居場所づくり)」
    - 児童生徒が安心して学校生活を過ごせるために、規範意識を醸成すること (黙想、机上の整理と構造化等)
    - きまりの意義や価値を児童が実感すること (学習規律の確認と定着)
  - ・「所属 (絆づくり)」
    - 他者へ貢献したり、他者と協働して何かをやり遂げる機会、自治的な活動が展開できる環境を意図的にしかけ、主体性や協働性を育むこと
  - ・「承認」
    - 授業中や様々な活動の場面で、一人一人の努力や成長、貢献を丁寧に見取り、具体的に承認・勇気づけのメッセージを伝える
  - ・「自立」
    - 学級活動、行事等において計画的に「振り返り」を記入させ、教師がフィードバックし、成長を実感させる
- 学びに向かう集団づくり
  - ・児童の自主的・実践的な態度を育てることは、個々の児童生徒や集団における問題解決能力の高まりにつながるため、学級活動や児童会・生徒会活動の充実を図る
    - 自治的な委員会活動になるように計画的・意図的な活動や支援すること
    - 縦割り班清掃や児童会の活動では、児童が主体となって見通しをもった活動の充実を図ること

(1) 支持的風土をつくる学級・学校経営



方策4 見通す (学校組織マネジメント)

- 学校課題解決に向けた組織マネジメントの機能を高める。
  - ・学力向上推進の3つの視点と5つの方策を焦点化した取り組みを展開
  - ・学校グランドデザインの共通理解を
- 学校評価と関連付けたカリキュラム・マネジメント及び年間サイクルの確立
  - ・「学びの質を高める授業改善・学校改善」サイクルをもとに、米須小の強みを生かしたカリキュラム・マネジメントの推進
  - ※別表参照
- 授業改善・学校改善に向けた校内研究 体制の充実
  - ・「主体的・対話的で深い学び」を通して資質・能力の育成を目指す授業改善や土台となる学校改善を推進するための校内研究体制の充実 「自ら見通しをもち、自己調整しながら自立して学習する児童の育成」

方策5 つなぐ (学校連携・地域連携)

- 市町村の特色を生かした施策推進による学校づくり
  - ・“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に必要とされる資質・能力を子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現
  - ・市町村教育委員会の施策を生かし、緊密な連携を図りながら、研究指定校の委託や学校支援訪問等を通じて学校への指導・支援を充実させ、連絡協議会等を開催し、情報共有すること
- キャリア教育の視点を踏まえた校種間の連携強化
  - ・授業や行事での交流等を校種間で計画的に行うこと
    - こども園との交流 ○お招き会 ○中学校体験授業 ○三和中校区の連携 ○大渡分校との校内研での特別支援教育について理解
- 学校・地域・家庭の互恵的関係の構築
  - ・保護者や地域住民等による、学校運営や教育活動への参画のために、学校運営協議会等の開催を通じて、各学校で育成を目指す資質・能力、教育目標や教育課程などを、学校、保護者、地域間で共有しながら相互に支え合う互恵的関係の構築
    - 学校運営協議会 (米須小校区災害緊急避難訓練、地域の方々による登下校時の見守り、図書室での放課後見守り隊、読み聞かせボランティア、童話お話大会参加児童への指導、自転車交通安全教室など)
    - 家庭と連携を図る学校教育目標の共通理解クリアファイル